

# 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023年3月31日作成)

小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：野嶋 慎二 就任年月：2022年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野嶋 慎二
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>都市計画委員会所属の小委員会および WG における研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p> <p>あわせて都市計画本委員会のホームページにより、各小委員会およびワーキンググループのホームページへのリンクや出版・シンポジウム等の情報発信により、活動成果の公開と地域社会へ普及することを目的とする。</p> <p>初年度：都市計画委員会の活動テーマとした国際的活動の展開のための準備研究 2年度：国際的活動の展開を模索するとともに新たな研究課題の検討 3年度：既成市街地の更新再生、歴史的文脈における生活空間再生にかかる論点・計画技術開発を担う新たな課題検討 4年度：生活空間への新たなアプローチを研究協議会で公開議論する</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：野嶋慎二(福井大学) 幹事：三輪律江(横浜国立大学)、松川寿也(長岡技術科学大学)、阿部大輔(龍谷大学) 佐藤宏亮(芝浦工業大学) 委員：山村崇(早稲田大学)、饗庭伸(東京都立大学)</p>	
設置 WG (WG名:目的)	<p>①研究協議会企画運営WG(主査:野澤康) 2022年9月に北海道科学大学(オンライン)で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と意見の集約を行う。</p> <p>②グローバルリスク適応型空間再生WG(主査:山村崇) GRが都市に及ぼす影響に関して、関連分野の知見を収集・整理する。また、GRに適応する空間再生の先進事例を資料調査および現地視察会を通して分析・整理し、既成市街地のローカルな状況を基礎とした実装化のための検討を行う。WGホームページ(開設済)において以上の活動成果を随時発信する。</p> <p>③都市と産業 WG(主査:饗庭伸) 都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p> <p>また、都市計画委員会のホームページにより、各小委員会およびワーキンググループのホームページへのリンクや出版・シンポジウム等の情報発信により、活動成果の公開と地域社会へ普及することを目的とする。</p>	
2022 年度予算	270,000円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/i-000/i090-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/i-000/i090-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4回(年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	なし
大会研究集会	1. 都市計画部門研究協議会「新たな価値を実現するための都市・都市計画の枠組み」 参加者数 94名
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 都市計画部門研究協議会「新たな価値を実現するための都市・都市計画の枠組み」を企画・運営した。</p> <p>2. 研究活動テーマの検討、立案、実施 (再編した小委員会の活動支援と2つのWGによる新規テーマの実施)</p> <p>3. 出版、講習会、シンポジウム等の企画、立案、実施へ向けた支援</p> <p>4. 都市計画委員会および各小委員会ホームページの管理</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 都市計画委員会の基礎的活動を担う小委員会として継続的・効率的に機能しており、特に大きな問題はない。今後の都市計画委員会活動の展開方針と合わせて本小委員会のあり方を検討していく。